

010群馬

長野原町へき地診療所

金子稔

所長



0279-82-1311

town.naganohara.gunma.jp

群馬県吾妻郡長野原町応桑20-2

へき地でも医療水準を落とさず、誰もが住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせるよう、アクセスしやすく持続可能な医療環境づくりを地域の皆さまとともに目指します。

群馬県吾妻郡長野原町で、住民の暮らしに寄り添う地域医療を実践している長野原町へき地診療所。所長を務める金子稔医師は、救急医療や外科診療の経験を生かし、小児から高齢者、外国人、外傷患者まで、地域で必要とされる幅広い診療に対応しています。通院が難しい患者への訪問診療や自宅看取りにも取り組み、医療だけでなく、住民の生活や地域活動にも深く関わってきました。金子稔所長が医師を志したきっかけ、長野原町へ赴任するまでの歩み、へき地診療所が担う役割、住民との温かな関係について伺います。さらに、医師不足や後継者育成など、へき地医療が抱える課題と、金子所長が思い描く地域医療の未来にも迫ります(2026年7月取材)。

救急医から長野原町のへき地診療所へ。金子稔所長が地域医療の道を歩むまで

金子先生の生い立ちについて教えてください。

生まれは群馬県の前橋市です。小学校から高校までずっと前橋で過ごし、県立前橋高校を卒業しました。その後、1年間浪人をして上京し、自治医科大学に進学しました。

医師を目指したきっかけは何だったのでしょうか？

中学2年生の時に観たドラマ『救命病棟24時』です。江口洋介さんが演じる救命医の姿に強く憧れ、「自分もこんなことをやってみたい」と心を打たれたのが大きなきっかけですね。ただ、実はその一方で、ずっと学校の教員になりたいという夢も持っていました。



医師とは全く違った方向性の夢もお持ちだったんですね

中学生か高校生に数学を教えたかったんです。最近でも趣味で微積分を解いたり、数学検定の2級を取得したりしていて、今度は準1級を受けようかなと考えているくらい数学が好きなんです。そのため、将来は教員になるか医師になるかでずっと迷っていましたね。

そこから、どのようにして医学部への進学を決意されたのでしょうか？

私の実家は決して裕福な家庭ではなく、親戚に看護師は1人いましたが、医師は誰もいなかったので医療業界のことは全く分かりませんでした。浪人も「1年しかできない」という状況だったので、両親に土下座をして「1年だけ頑張らせてください」とお願いしたんです。それから必死に勉強して、なんとか無事に自治医大に合格することができました。



学生時代はスポーツにも打ち込まれていたと伺いました。

はい、ずっと野球をやってきました。小・中・高・大学と続け、今でも4つのチームに所属してプレイし

ています。高校までは軟式野球でしたが、自治医大では準硬式野球部に入りました。大学の野球部はとも強くて、東日本医科学学生総合体育大会で優勝したこともありますね。

大学卒業後は、初期研修を経て救急医の道へ進まれたのですね。

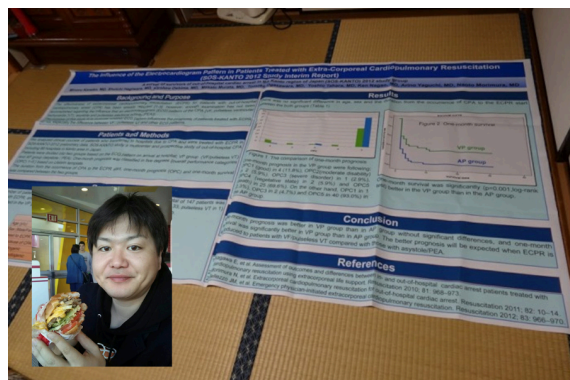
ドラマを観て抱いた憧れもあり、大学の最初の頃は救急医志望だったのですが、5年生の時の外科実習で出会った消化器外科の先生がとても素晴らしい方で。その先生と過ごす時間の中で外科医の面白さに気づき、その時は外科医を目指す道へ方向転換したんです。そして卒業後、群馬大学医学部附属病院での初期研修は外科を中心に過ごしました。

しかし、そこで救命救急の先生にもお世話になりその方がまたすごく良い先生だったんです。私は周りの人に影響されやすい性格というのもあって、心の中でくすぶっていた「あのドラマの主人公のような救急医になりたい」という夢が再び芽生え、医師3年目で救急の道へ進むことになりました。



救急医時代には、どのような経験を積まれたのでしょうか？

救急での2年間は、社会人大学院生として大学院に入り、論文の執筆や研究にも打ち込みました。ありがたいことにアメリカの集中治療学会に参加することができ、サンフランシスコで教授と一緒に演題を発表する機会もいただきました。研究テーマは、病院の外で心肺停止になった患者さんに対してECMOなどを用いた体外心肺蘇生を行う際、心停止の波形によって蘇生率がどう異なるかというものでした。



また、高崎総合医療センターで月に1回ほどドクターカーに乗せていただく機会もありました。現場へ急行して心肺停止の患者さんを蘇生させ、「どうにか命を繋がなければ」と必死に奮闘した経験は、今の自分の大きな糧になっています。

長野原町へき地診療所が担う地域医療—小児から外国人まで支える「断らない医療」

2015年に長野原町へき地診療所に赴任されましたが、どのような経緯があったのでしょうか？

群馬県の場合、自治医科大学の卒業生は医師になって5～7年目の3年間、へき地診療所に派遣されるという取り決めがあります。その時たまたま長野原町へき地診療所の枠が空いており、そこに派遣されることになりました。

また、当時の私は社会人大学院生だったのですが、こちらの診療所には研究のための休みが設けられていました…



続きはQRコードからアクセスしてください → → →

